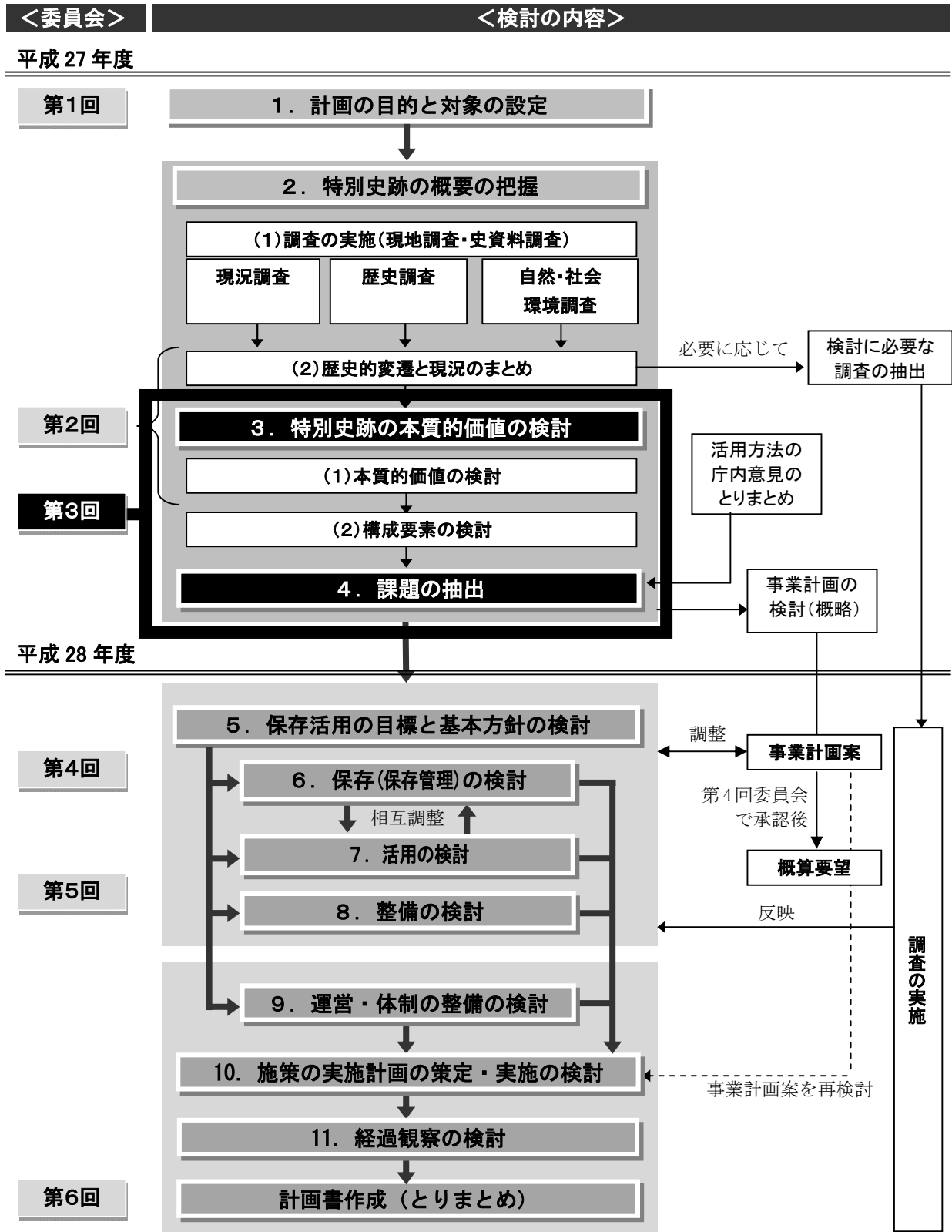


第 3 回委員会の検討内容と第 2 回委員会の主な意見

1. 第 3 回委員会の検討内容



図：2 力年の保存活用計画策定のフローと委員会の開催時期（案）

※第 2 回委員会資料を一部修正して作成

2. 第2回 旧弘道館保存活用計画策定委員会 主な意見と対応

主な意見		対応
(1) 第1回委員会の主な意見と対応について		
(特に質問等無し)		—
(2) 保存管理計画の進め方について		
本質的価値に関しては、本委員会で検討した結果を、必要に応じて上位計画や、関連計画に反映させる。		・上位計画、関連計画へ反映するよう対応予定。
(3) 保存活用計画の位置づけについて		
都市公園としての機能も利活用の点では活かす必要があるが、本質的価値という点からは、やはり文化財であるという点を今後は強調していくことが重要である。		—
(4) 本質的価値について		
近世・近代の学校・教育制度における位置付け(価値)	弘道館の場合、特定の価値を伝える場として創設された藩校ということが非常に重要である。 これが後に、明治の臣民教育、戦後の民主主義教育、現在の公教育に発展しているため、近代の学校制度に結びつく先がけとなった側面もあるということは今後さらに明らかにしていく必要があると考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・近世・近代の学校制度における弘道館の位置付けについて文献調査を行う。 ⇒協議資料の P1~2 ⇒参考資料の 2
	水戸市が進める世界遺産登録推進の顕著な普遍的価値の検討では、「弘道館が近世の藩校の発達史の中で、近世の藩校の集大成である」ことを重要なキーワードのひとつとして挙げているので、記述していただけたらありがたい。	
	実学の実施という観点では、医学館や調練所等は、当時の社会情勢を反映し、社会のニーズに応えた学校や教育のあり方というものを具現化していると言える。これらの点からも弘道館は他の藩校と単純には比較できない側面があると言える。	<ul style="list-style-type: none"> ・医学館について時代背景と合わせて文献調査を行う。 ⇒協議資料の P1 ⇒参考資料の 2
施設配置の価値	斉昭は、学生が通学する過程で歩きながら建学の精神が自然に身につくようなことも目指していたように思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を考慮しつつ方針等の検討を進める。
	弘道館の中でも、最も重要と言われる第3区画に学校の本質的な価値がある。	
	神社の一角は聖なる空間の一角として位置付けられるため、鹿島神社がなければ弘道館は存在しないと考える。	
	斉昭の考え方(建学の精神)が反映されている弘道館の各施設の配置についても本質的価値として保存し、活用していかなければならない。	

藩校以降の時代の整理	本質的価値を持った藩校の時代から現在に至るまで、弘道館が人々に与えた様々な意味合い、あるいは市民の方々が弘道館をどのように大事にしてきたかということも重要だろう。	・明治以降の状況を再確認する。 ⇒協議資料の P2~3 ⇒参考資料の 3
	明治・大正期に評価を受けてきたのかという点が気になる。明治・大正期についての説明がもう少しあると良いと思う。	
	資料には、大正 11 年以降に「文化財としての価値」というものが新しく出てきているが、これは本質的な価値＝文化財としての価値という考えと異なることになるのではないかな。	・本質的価値の説明表を修正 ⇒協議資料の P4
	史跡指定した後に実施した復元等の整備により、藩校としての価値が現在も繋がっているということがわかるように表現すると、対外的に説明できる資料になるかと思う。	
その他	弘道館の場合は、建物がある程度残っており、その他文献や絵図等も多く残っているため、例えば、今後、発掘調査等をして本質的価値の内容が大きく変わることはないだろう。	—
(5) その他 今後の検討項目に関する意見		
時代設定	弘道館が完成された安政 4 年 5 月 9 日の時点が、本質的価値が最も充実し、頂点に達した時期であり、それを目指して保存計画や将来像を考えていくべきなのかと思う。	・安政 4 年の本開館を将来像の目標として検討を進める。 (次年度 具体的な内容を検討)
将来像	本質的価値の時代に反するものや、支障を与えるものは、差し支えない範囲で中長期的に撤去していくことも考える必要がある。	
	将来 30 年先を考えると、文館や寄宿舎を復元したいと考える。その場合、テニスコートなどは本質的な価値にそぐわないとして撤去して、本来の姿に戻すべきだろうと考える。	
	大手門、二の丸角櫓も復元されるので、将来的には創建時の施設を復元することを考えると弘道館の周りの景観も変わってきて、目に見える形で、水戸の城下町の風格というものが出てくると思う。	・今後、意見を考慮しつつ検討を進める。 (次年度 具体的な内容を検討)
	弘道館の場合には非常に詳細な図面があるので、正庁等の残されている建物を参考にかなり正確な復元ができるのではないかな。	
活用	中国、韓国の人々に対しては、儒教の精神を逆に教える場となっても良いと考える。	
その他	引用する資料については、『水戸藩学問・教育史の研究』や『水戸弘道館小史』も参考にしていきたい。	・文献の内容を確認して適宜資料に反映させる。 ⇒参考資料の 2